

基準 4 学生の受入

(1) 観点ごとの分析

観点 4-1-①：教育の目的に沿って、求める学生像や入学者選抜（例えば、準学士課程入学者選抜、編入学生選抜、留学生選抜、専攻科入学者選抜等が考えられる。）の基本方針などが記載されたアドミッション・ポリシーが明確に定められ、学校の教職員に周知されているか。また、将来の学生を含め社会に公表されているか。

（観点到係る状況）準学士課程のアドミッション・ポリシーは明文化されており（資料 4-1-①-1）、学生募集要項（資料 4-1-①-2）やウェブサイト（資料 4-1-①-3）、学校概要（資料 4-1-①-4）に掲載され、学校の構成員に周知されているとともに、社会に対して公表されている。

資料 4-1-①-1：準学士課程アドミッション・ポリシー

アドミッション・ポリシー（受入れ方針）について

沼津高専は初代校長の遺訓「人柄の良い優秀な技術者となって、世の期待にこたえよ」にあるように人柄を重要視しています。また、講義と共に実験実習等の体験学習を通して一般科目や専門教科を修めた上に、情報技術を駆使できる学生を育成したいと考えています。そのため、

- (1) 他人を思いやる心を持ち、責任感のある誠実な人
- (2) 技術者や科学者を目指す人
- (3) 勉強が好きで、自分の才能を伸ばすために努力できる人

が入学してくることを望んでいます。

（出典：平成 17 年度沼津工業高等専門学校学生募集要項）

資料4-1-①-2：募集要項に掲載された準学士課程の受入れ方針

VI. 入学説明会

入学を希望する者は、平成17年3月8日(火)午前10時からの入学説明会に出席し、所定の経費を納入してください。この説明会に出席しない者は、本校に入学の意志がないものとして合格を取り消します。

なお、入学説明会当日(3月8日)までに必要な経費は次のとおりです。

入 学 料	84,600円
授業料前払分として	114,000円(年額228,000円)
その他として	約100,000円

(教科書代、新入生合宿研修経費、教育後援会費、4月分寮費等)

注1 納入金額は、規則等の改正により変更することがあります。この場合は入学願書受付時に連絡します。

いったん納入された入学科は返還しません。

注2 成績優秀者で、経済的理由により、入学科、授業料、寄宿料の納入が困難な者については、減免制度があります。

注3 在学中に授業料改定が行われた場合には、改定後の新授業料が適用されます。

VII. 入学者の入室

本校に入学した者は、第1・2学年は、原則として全員入室するものとします。ただし、第2学年は、自宅通学を希望する者に限り、入室を免除します。

VIII. アドミッション・ポリシー(受入れ方針)について

沼津高専は初代校長の遺訓「人柄の良い優秀な技術者となって、世の期待にこたえよ」にあるように人柄を重要視しています。また、講義と共に実験実習等の体験学習を通して一般科目や専門教科を修めた上に、情報技術を駆使できる学生を育成したいと考えています。そのため、

- (1) 他人を思いやる心を持ち、責任感のある誠実な人
- (2) 技術者や科学者を目指す人
- (3) 勉強が好きで、自分の才能を伸ばすために努力できる人が入学してくることを望んでいます。

機械工学科

機械工学科では機械や装置などを合理的に設計・製作するための知識と技術を習得します。また、機械技術者に求められる電気・電子工学の知識やコンピュータを利用する技術なども学びます。機械工学科では次のような人を求めています。

- (1) モノづくりが好きの人
- (2) ロボットや自動車などに代表される機械の原理やしくみに興味がある人
- (3) 絶えず疑問を持ち、その疑問を解決するためにチャレンジする人

電気電子工学科

電気電子工学科では、電力、制御、情報技術、通信、電子回路、デバイスなどについて学び、これらの分野に対応できる技術者になるための勉強をします。本学科では、次のような人を求めています。

- (1) 電気電子情報分野に夢をもっている人
- (2) 電力や通信などの社会基盤をつくる技術者になりたい人
- (3) 電気電子情報関連の先端技術にチャレンジしたい人

電子制御工学科

電子制御工学科では、次のような能力をもつ技術者の育成を教育目標としています。

- (1) 技術が地球環境へ及ぼす影響を考慮することができ、社会的責任を自覚できる。
- (2) 数学、自然科学および情報技術に関する知識とそれらを活用できる能力。
- (3) 工学的な解析・分析力、及びそれらを創造的に統合する能力。
- (4) 論理的な記述力、口頭発表力、討議等のコミュニケーション能力。
- (5) 与えられた制約の下で計画的に仕事を進め、まとめる能力。

本学科において技術者教育を受け、将来は技術者として専門技術を発揮して活躍し、社会的責任を自覚して世界のために貢献することを目指す学生の入学を希望します。

制御情報工学科

制御情報工学科では、コンピュータの仕組みを理解し、自動車、ロボット、通信・ネットワーク、医療器械、家電機器などの各種産業分野で、コンピュータを利用した「モノづくり」を通して社会に貢献できる技術者を育てることを目標としています。そのため、次のような人を求めています。

- (1) モノづくりが好きで、技術者になって社会に貢献することを目指す人
- (2) 機械、電気・電子、制御、コンピュータの技術を幅広く学習したい人
- (3) コンピュータに関わるハードウェアやソフトウェアの技術に興味を持つ人

物質工学科

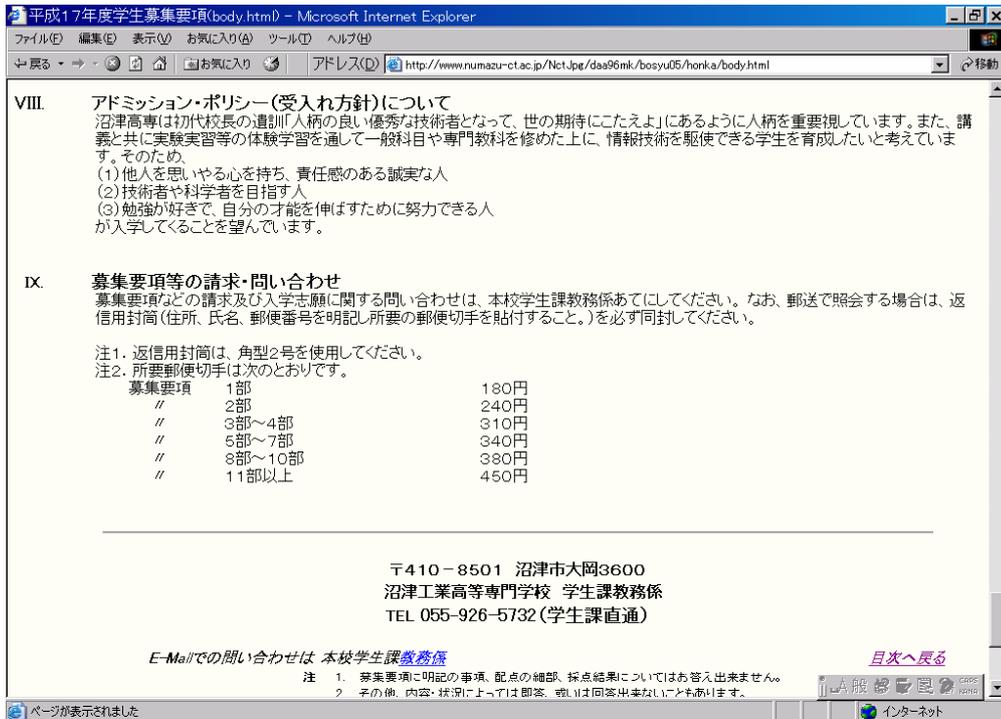
物質工学科では、分析化学、無機化学、物理化学、有機化学、化学工学、生物化学など、化学技術者になるための知識と技術を勉強します。

そのため、本学科では次のような人を求めています。

- (1) 化学、生物学を中心とした理科が好きで、この分野の勉強に自ら熱心に取り組める人
- (2) 実験や実習等で化学や生物に関する理論や仕組みを自分で確かめたり、実験装置を自分で作ることが好きな人
- (3) 化学工業、食品工業、医薬品工業などの分野で技術者として活躍したい人
- (4) 新しい材料の開発やバイオテクノロジーなどにチャレンジしたい人

(出典：平成17年度沼津工業高等専門学校学生募集要項)

資料4-1-①-3：ウェブサイトに掲載された準学士課程アドミッション・ポリシー



(出典：本校公式ウェブサイト)

http://www.numazu-ct.ac.jp/NctJpg/daa96mk/bosyu05/honka/body.html

資料 4-1-①-4 : 学校概要に掲載された準学士課程アドミッション・ポリシー

● **教育理念**
人柄のよい優秀な技術者となって世の期待にこたえよ

● **目的**
静岡県東部地区唯一の国立の高等教育機関として、地域産業に寄与する社会的使命と役割を認識しつつ、時代の変化に即応しながら、豊かな人間性を形成する教養教育に力を入れ、専門教育においては、実験・実習及び情報技術を重視した体験的早期専門教育を行い、実践的技術者を養成する。

● **教育目標**

- 低学年全寮制を主軸とするカレッジライフを通じて、全人格教育を行う。
- コミュニケーション能力に優れた国際感覚豊かな技術者の養成を行う。
- 実験・実習及び情報技術を重視し、社会の要請に応え得る実践的技術者の養成を行う。
- 教員の活発な研究活動を背景に、独創的技術者の養成を行う。

● **学生受入方針**

- 他人を思いやる心を持ち、責任感のある誠実な人
- 技術者や科学者を目指す人
- 勉強が好きで、自分の才能を伸ばすために努力できる人



学生寮風景

(出典：平成 17 年度沼津工業高等専門学校学校概要)

また、中学校訪問や進学説明会、一日体験入学の際の説明会等においても準学士課程のアドミッション・ポリシーを説明している。

高校からの第 4 学年編入学に関しても受入れ方針を明文化し（資料 4-1-①-5）、編入学案内（資料 4-1-①-6）及びウェブサイトに掲載している。

資料 4-1-①-5 : 「編入学案内」に掲載された 4 年次編入学生受け入れ方針

沼津高専 4 年次編入学生受け入れ方針

沼津高専は以下の条件を満たす有資格者の高専 4 年次への編入学を受け入れます。

- (1) 技術者になるという明確な意志があること。
- (2) 将来は技術者として社会に貢献しようとする姿勢があること。
- (3) 科学技術の諸問題に対する強い関心を持っていること。
- (4) 数学、英語、および編入学希望先の学科が要求する理科系科目、の基本的学力を有していること。
- (5) 高等学校における工業教育、もしくは自然科学教育の教科目において、継続的な学習を行ってきた経験があること。
- (6) 社会および本校のルールを遵守する倫理観を有すること。

(出典：沼津工業高等専門学校編入学案内)

資料 4-1-①-6 : 「編入学案内」に掲載された 4 年次編入学生受け入れ方針

入 学 案 内

工業高等専門学校は「深く専門の学芸を教授し、職業に必要な能力を育成する。」ことを目的とし、豊かな教養と専門の技術を身につけた実践的な技術者の育成を使命としており、中学校卒業程度を入学資格とする 5 年制の一貫教育を行う国立の高等教育機関（大学等）である。

本校では、理論的な基礎とともに、実験・実習を重視し、実践的エンジニアを養成しており、卒業生は希望にかなった会社へ就職でき、また、更に深く勉強したい人には、大学の 3 年次への編入学、高専専攻科の道が開かれている。

1. 沼津高専 4 年次編入学生受け入れ方針

沼津高専は以下の条件を満たす有資格者の高専 4 年次への編入学を受け入れます。

- (1) 技術者になるという明確な意志があること。
- (2) 将来は技術者として社会に貢献しようとする姿勢があること。
- (3) 科学技術の諸問題に対する強い関心を持っていること。
- (4) 数学、英語、および編入学希望先の学科が要求する理科系科目、の基本的な学力を有していること。
- (5) 高等学校における工業教育、もしくは自然科学教育の教科目において、継続的な学習を行ってきた経験があること。
- (6) 社会および本校のルールを遵守する倫理観を有すること。

(出典：沼津工業高等専門学校編入学案内)

専攻科課程の受け入れ方針は「専攻科入学者選考規程」（資料 4-1-①-7）により明文化され、専攻科募集要項（資料 4-1-①-8）及びウェブサイトを通じて公開されている。

資料 4-1-①-7 : 専攻科入学者選考規程（抜粋）

(選考方針)

第 2 条 専攻科は、当該専攻科の目的を達成し、及び教育目標を実現するため、当該専攻科へ入学を志願する者のうちから、次に掲げる意欲、学力及び経験を有するものを選考するものとする。

- (1) 広い視野と深い専門性を身につけた技術者として、将来、社会の発展及び公衆の福祉に寄与する意欲を持った者
- (2) 数学、自然科学及び英語に関し、工学教育を受けるために必要な学力を有する者
- (3) 基礎的な工学の方法について、一定の指導と訓練を受け、一定の期間にわたって実践した経験を有する者

(出典：本校規則集)

http://www.numazu-ct.ac.jp/NctJpg/ki_sokusyu/0762_senkouka-nyuugakusyasenkou.htm

資料 4-1-①-8：専攻科生選抜方針

Ⅲ 選 抜 方 針

本専攻科への入学者に、以下の意欲、学力、及び経験を具備していることを要請します。

- (1) 広い視野と、深い専門性を身につけた技術者として、社会の発展、公衆の福祉に寄与したいという意欲
- (2) 数学、自然科学、及び英語に関して、工学教育を受けるために必要な学力
- (3) 基礎的な工学の方法について、一定の指導と訓練を受け、初歩的ではあっても、一定の期間にわたって実践した経験

(出典：沼津工業高等専門学校専攻科学生募集要項)

(分析結果とその根拠理由) 優れている。各段階のアドミッション・ポリシーは全て明文化され、冊子、ウェブサイト、口頭の対面プレゼンテーションなど多様な手段を通じて周知が図られている。

観点 4-2-①：アドミッション・ポリシーに沿って適切な学生の受入方法が採用されており、実際の入学者選抜が適切に実施されているか。

(観点に係る状況) 準学士課程の一般選抜については、学力試験が全国の国立高専で統一の問題を使用して行われるため、問題そのものに本校独自のアドミッション・ポリシーを反映することは困難である。ただし、技術者としての素養として数学を重視するという観点から、数学の素点を2倍にする「傾斜配点」を行っている。また、面接での口頭試問の内容に反映している(資料は訪問調査において提示)。

さらに、調査書記載事項(特別活動の実績等)を点数化する際にもアドミッション・ポリシーを反映している(資料は訪問調査において提示)。

準学士課程の推薦選抜については、上記一般選抜と同様、面接での口頭試問の内容及び調査書記載事項の点数化にアドミッション・ポリシーを反映しているほか、一部の学科では適性試験・小論文試験等を実施してより確実な反映を図っている。

高校からの第4学年編入学については、受入れ方針の各項目を試験問題等へ反映させている(資料 4-2-①-1)。

資料 4-2-①-1：第4学年編入学試験の実施方法

(i) 選 抜 の 基 本 方 針

高校卒業者を高専第4学年に受け入れている。受け入れの条件は、

- i. 高校を卒業しているか、来年度卒業の見込みの者
- ii. 沼津高専が提示する受け入れ方針を認める者

となっている。

沼津高専が提示する第4学年編入生の受け入れ方針は以下の6項目である。

- (ア) 技術者になるという明確な意志があること。
- (イ) 将来は技術者として社会に貢献しようとする姿勢があること。
- (ウ) 科学技術の諸問題に対する強い関心を持っていること。
- (エ) 数学、英語、および編入学希望先の学科が要求する理科系科目、の基本的な学力を有していること。

(オ) 高等学校における工業教育，もしくは自然科学教育の教科目において，継続的な学習を行ってきた経験があること。

(カ) 社会および本校のルールを遵守する倫理観を有すること。

これらの受け入れ方針は，'05年度編入学案内に印刷されて，過去編入学実績のある高校を始め，問い合わせのあった高校にも配布される。また，第4学年編入生募集のウェブサイトにて公開される。

(ii) 具体的選抜方法

(ア)～(ウ)については，面接による口頭試問で行う。

(エ)については，数学，英語の各学科共通の試験を行う。

(オ)については，各学科が専門試験を行う。

(カ)については，面接により確認する。

・合否判定

合否については，上記6課題についての採点・評価結果を各学科会議が取りまとめ，高専入試実行委員会に報告し，高専入試実行委員会 の総意に基づいて決定する。

(出典：平成16年度「総合システム工学」自己点検書)

専攻科課程の選抜については，選抜の基本方針を面接・筆頭試問・口頭試問の各方法に反映している(資料4-2-①-2)。

資料4-2-①-2：専攻科入学試験の実施方法

本プログラム後半部は基本的に，高専，短大の卒業生を受け入れの対象者としている。従って，専攻科入学が同時に本プログラム後半部履修者の決定過程であり，同時にプログラムへの編入過程でもある。本専攻科にはJABEE対応の総合システム工学プログラム後半部のみが存在する。

(i) 選抜の基本方針

本プログラム後半部における選抜の基本方針は，「沼津高専専攻科入学者選考規程」に規定され，専攻科公式ウェブサイトを通じて公開されている。要約すれば，(1)技術者として社会発展や公衆福祉へ貢献する意欲，

(2)工学教育を受けるために必要な数学，自然科学，英語等の基礎学力，(3)工学実践の経験 の3課題に要約される。これらの課題は「沼津高専専攻科募集要項」の刊行と全国高専等への配布を通じて公開し，入学希望者が課題に答えられるかどうかは「専攻科選抜試験実施要領」に従い検査される。

選抜の基本方針と，実施内容の関係を下図に示す。

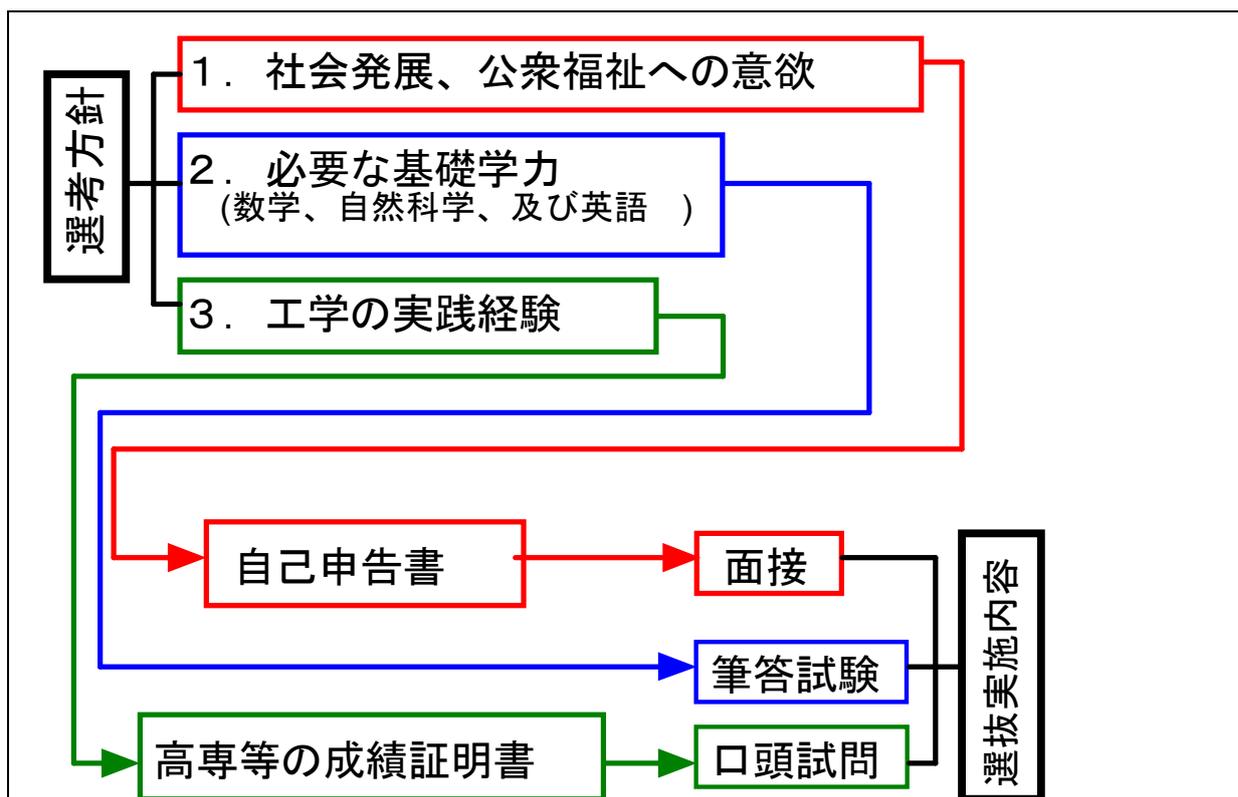


図 3. 2. 選抜方針と試験方法

(ii) 具体的選抜方法

- 自己申告書に基づく、「意欲」の審査は、総合システム工学を形成する各専攻分野から 4 名の専攻科担当教員が検査員として『専攻科入試委員会』より選任され、これにあたる。審査基準は『専攻科入試委員会』より提示される基本案を参考にし、検査員が独自に設定し、採点する。面接については独自の判断に基づき、A, B, C, D の 4 段階法で採点する。
- 基礎学力を判定する筆答試験は、数学、自然科学(物理、化学)については SATⅡ-Subject Test、及び技術士 1 次試験・共通試験を参考にして作成した 5 肢選択法の客観テストを実施する。数学 IC については必須であり、数学 IIC、物理、化学については 1 科目を選択するものとする。問題については幾つかの例題を募集要項に示す。英語については TOEIC スコア 350 程度以上を要求し、TOEIC Test に準じる試験を必須として実施する。この旨も募集要項に記載し、公開する。
- 口頭試問については、National Council of Examiners for Engineering and Surveying (NCESS) の Fundamentals of Engineering (FE) 試験のレベルの問題を作成し、受験者の既習分野について質問する。問題は英文で示し、日本語で解答することを求める。
- 十分な「意欲」と「工学の実践経験」を持つと認められた受験希望者は、沼津高専の学科による推薦を受けることができる。学科からの推薦者は面接と口頭試問を免除し、これらの検査については学科主任による推薦状を持って代用する。
- 合否については、上記 3 課題についての採点・評価結果を専攻科入試委員会が取りまとめ、専攻科担当教員会議に報告し、会議の総意に基づいて決定する。

(iii) 公開方法とその実態

入学希望者への公開に関しては、「沼津高専専攻科募集要項」を全国高専等へ送付し、文書による公開を行う。また、沼津高専内においては専攻科進学説明会を行い、沼津高専の第 4,5 学年への周知徹底をはかる。‘04 年度の受験者は昨年度比 37%増加した。

(出典：平成 16 年度「総合システム工学」自己点検書)

(分析結果とその根拠理由) 相応である。各段階の選抜において、それぞれアドミッション・ポリシーに基づいた選抜手段が可能な限り講じられている。

観点 4-2-②：アドミッション・ポリシーに沿った学生の受入が実際に行われているかどうかを検証しており、その結果を入学者選抜の改善に役立てているか。

(観点に係る状況) 入試実行委員会及び専攻科入試実行委員会において、各年度の入学試験について準備から段階的に検討が重ねられており、前年度の検証・反省を活かして改善策を講じている(資料 4-2-②-1)。

資料 4-2-②-1：入試改善への取組状況

題名	入試改善について
差出人	濱屋 進

平成 17 年 2 月 21 日

教職員各位 濱屋です。メールで失礼します。

平成 17 年度の推薦入試及び一般入試につきましては、天候にも恵まれ滞りなく実行でき、ご苦勞様でした。採点業務も午前中に終了し、この後、合否判定及び合格発表等の業務がありますが、よろしくお願ひします。

さて、推薦入試及び一般入試をとおして、今回の入試に関する反省点等や改善点について、入試業務を個々に担当された皆様から、ご意見等を聞き来年度以降の入試及び入試業務に反映させたいと思います。

については、下記のとおり意見や感想を皆様からお聞きしたいので、項目番号を付してご意見等を、学生課長 (gkacho@numazu-ct.ac.jp) あてに、3 月 4 日までにお寄せください。

また、入試実行委員の皆様には、これらの意見を集約後に入試反省会を実施したいと思いますので、その際にはご多忙のところ恐縮ですが、ご参集くださいますよう併せてお願ひします。

記

1. 推薦入試に関すること。
 - 1-1. 試験室、保護者控え室等に関すること。
 - 1-2. 試験準備に関すること。
 - 1-3. 試験当日の業務に関すること。
 - 1-4. 合否発表に関すること。
 - 1-5. 推薦入試において上記以外に関すること。
2. 一般入試に関すること。
 - 2-1. 試験室、保護者控え室等に関すること。
 - 2-2. 試験準備に関すること。
 - 2-3. 試験当日の業務に関すること。
 - 2-4. 試験採点に関すること。
 - 2-5. 合否発表に関すること。
 - 2-6. 一般入試において上記以外に関すること。

(出典：入試実行委員会資料)

(分析結果とその根拠理由) 相応である。毎年の入試実行委員会において必ず前年度の反省が行われ、その上に立った改善策が議論されており、入学志願者も定員の約2倍を維持している。

観点4-3-①: 実入学者数が、入学定員を大幅に超える、又は下回る状況になっていないか。また、その場合には、これを改善するための取組が行われるなど、入学定員と実入学者数との関係の適正化が図られているか。

(観点に係る状況) 最近の実入学者は、準学士課程においては入学定員を大幅に超える、又は下回る状況にはなっていない(資料4-3-①-1)が、専攻科課程において一部の専攻の実入学者数が定員を大幅に超えている(資料4-3-①-2)。ただし、教員の配置や教育方法・内容に工夫をしており(資料4-3-①-3)、教育活動上に特段の支障を生じていない。

資料4-3-①-1: 準学士課程における今年度及び昨年度の学生入学状況

■学 科	■平成 16年度				■平成 17年度			
	募集人員	志願者	入学者	倍率	募集人員	志願者	入学者	倍率
機械工学科	40(16)	79(24)	43(18)	1.8(1.3)	40(16)	81(33)	43(18)	1.9(1.8)
電気電子工学科	40(16)	67(22)	42(16)	1.6(1.4)	40(16)	67(30)	42(16)	1.6(1.9)
電子制御工学科	40(16)	86(43)	40(17)	2.1(2.5)	40(16)	77(33)	41(16)	1.9(2.1)
制御情報工学科	40(16)	88(36)	43(19)	2.0(1.9)	40(16)	69(25)	42(16)	1.6(1.6)
物資工学科	40(16)	104(39)	43(19)	2.4(2.1)	40(16)	98(45)	43(18)	2.3(2.5)
計	200(80)	424(164)	211(89)	2.0(1.8)	200(80)	392(166)	211(84)	1.9(2.0)

() 内は推薦選抜による内数。倍率は、小数点第2位を四捨五入。

(出典: 本校公式ウェブサイト)

http://www.numazu-ct.ac.jp/NctJpg/data_GK1.htm

資料4-3-①-2: 専攻科課程における今年度及び昨年度の学生入学状況

■専 攻	■募集人員	■平成16年度		■平成17年度	
		志願者	入学者	志願者	入学者
機械・電気システム工学専攻	8	20	6	17	8
制御・情報システム工学専攻	8	24	14	20	14
応用物質工学専攻	4	9	5	7	4
計	20	53	25	44	26

(出典: 本校公式ウェブサイト)

http://www.numazu-ct.ac.jp/NctJpg/data_GK1.htm

資料 4-3-①-3：専攻科課程における教員の配置や教育方法・内容の工夫
平成 16 年度「総合システム工学」自己点検書（抜粋）

3.2 教育方法

(3) 授業等での学生支援の仕組みとその開示・実施

(i) 学生支援の仕組み—指導教員制—

専攻科学生は本専攻科在籍期間を通じて研究指導教員の指導を受けて学習・研究の方法を学び、態度を身につける。従って、研究指導教員の指導範囲は狭義の研究テーマに限らず、授業等についても科目担当教員と連絡を取りつつ、学業上での学生支援に及ぶ。また、学生は、自己の意志に基づき、学期毎に研究指導教員の変更を専攻科担当教員会議に申し出ることが出来る。

学習・教育目標 (5) 「産業現場における実務への対応能力と、自覚的に自己研鑽を継続できる能力」を実現するために、本プログラム後半部で必修科目として実施している専攻科実習に関し、研究指導教員が行う学生支援の内容は「専攻科実習規則」に定めている。研究指導教員は学生が専攻科実習を受講するに当たって、以下の事項を通じて学生を支援する。

1. 受入先の選定及び配属先の決定
2. 受入先における実習指導者の指定
3. 実習テーマ、内容等に関する指導・助言
4. 実習における安全管理（傷害保険への加入を含む。）、就業心得等の事前指導
5. 実習中に発生した事故又は異常事態の処置及び校長への報告

(ii) 学生支援の仕組みの開示方法

研究指導教員は学期始毎に「研究指導計画書」を作成し、学期末毎に「研究指導報告書」を作成し、開示するものとする。

研究指導教員の指導、支援の範囲については以下の図に示す。

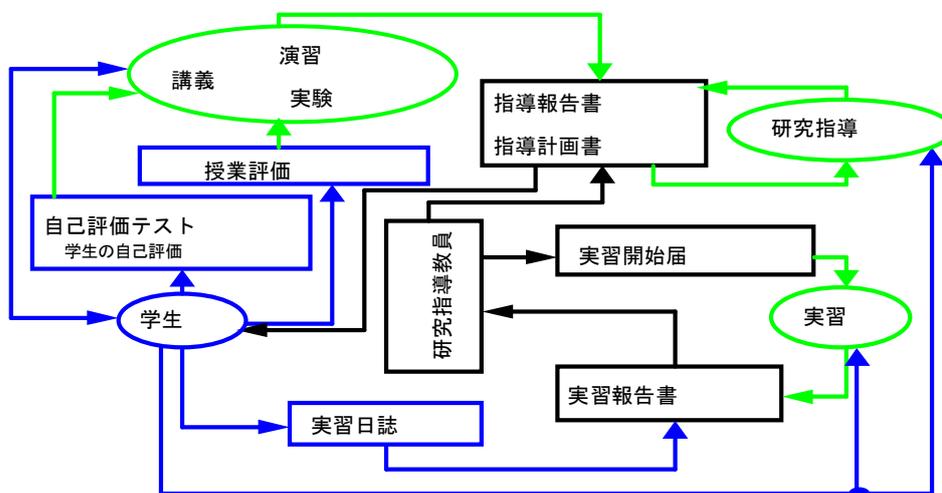


図 3. 5. 学生と研究指導教員

学生支援の仕組みは、関連する諸規則で定めており、全て専攻科公式ホームページで公開している。

プログラム前半部における第4学年並びに第5学年への学生支援は、主として学級担任を通じて行われる。学生生活支援室も第4学年並びに第5学年学生のメンタル・ケアを通じて学生支援を行っている。[3.2(3)]

(iii) 専攻科学生支援の仕組みの活動実績

1. 研究指導報告書にて開示。
2. 専攻科担当教員毎におけるオフィスアワーを設定し、専用連絡ボードを設置し、学生支援に活用している。

(出典：平成16年度「総合システム工学」自己点検書)

(分析結果とその根拠理由) 相応である。準学士課程においては、入学定員と実入学者数との関係は適正に管理されている。専攻科課程においては、一部において実入学者数が定員を大幅に超えているが、同専攻を志願する者に比べて定員が僅少(8名)であるためであり、教員配置や教育方法の工夫などによって問題の発生を防止しており、全体として相応である。

(2) 優れた点及び改善を要する点

(優れた点) 入学者選抜の全ての段階(準学士課程1年生、準学士課程4年生編入学、専攻科課程)においてアドミッション・ポリシーを明文化し、冊子、ウェブサイト、口頭の対面プレゼンテーションなど多様な手段を通じて周知を図る取組は、将来の構成員を含めた社会に対して広く受入れ方針を自主的に発信している点から、優れている。

(改善を要する点) 特になし。

(3) 基準4の自己評価の概要

入学者選抜の全ての段階(準学士課程1年生、準学士課程4年生編入学、専攻科課程)においてアドミッション・ポリシーは明文化されており、学生募集要項やウェブサイトに掲載され、学校の構成員に周知されているとともに、社会に対して公表されている。また、中学校訪問や進学説明会等においても準学士課程のアドミッション・ポリシーを説明している。以上のように、各段階のアドミッション・ポリシーは冊子、ウェブサイト、口頭の対面プレゼンテーションなど多様な手段を通じて周知が図られている点は、優れている。

準学士課程の一般選抜については、学力試験が全国の国立高専で統一の問題を使用して行われるため、問題そのものに本校独自のアドミッション・ポリシーを反映することは困難である。ただし、傾斜配点や面接での口頭試問により反映を図っている。さらに、調査書記載事項(特別活動の実績等)を点数化する際にもアドミッション・ポリシーを反映している。準学士課程の推薦選抜については、上記一般選抜と同様、面接での口頭試問の内容及び調査書記載事項の点数化にアドミッション・ポリシーを反映しているほか、一部の学科では適性試験・小論文試験等を実施してより確実な反映を図っている。高校からの第4学年編入学については、受入れ方針の各項目を試験問題等へ反映させている。専攻科課程の選抜については、選抜の基本方針を面接・筆頭試問・口頭試問の各方法に反映している。各段階の選抜において、それぞれアドミッション・ポリシーに基づいた選抜手

段が可能な限り講じられており、相応である。

入試方法等の改善については、入試実行委員会及び専攻科入試実行委員会において、各年度の入学試験について準備から段階的に検討が重ねられており、前年度の検証・反省を活かして改善策を講じており、相応である。

準学士課程においては、入学定員と実入学者数との関係は適正に管理されているが、専攻科課程において一部の専攻の実入学者数が定員を大幅に超えている。ただし、これは同専攻を志願する者に比べて定員が僅少（8名）であるためであり、教員配置や教育方法の工夫などによって問題の発生を防止しており、教育活動上に特段の支障を生じておらず、全体として相応である。